



天王様

明治初年、神仏分離の命により、牛頭天王社を八雲神社と改めた。天王様の御神輿は陰暦の閏年の六月十四日、宵祭の夜行われる。

御神輿渡御は上木之崎と下木之崎の両地区が交代で出す。獅子頭は、上木之崎は雄獅子、下木之崎は雌獅子で踊る。

午後から総代宅に集まり、準備して暮色迫る頃出発する。屋敷の辻などで獅子を振り、神社に進む。正面鳥居より百メートル位の所に御仮舎を設け、ここに神輿を移す。神官が御神輿に御神体を遷して、神輿渡御の行事が執り行なわれる。だし振りは軍配を振り、獅子振りを導く。社殿を左より一周して昇殿する。青年が拝殿の屋根の上から、ぐし餅をまく。仮舎より昇殿まで約二時間かかる。

天王様の夏祭りに、獅子舞が奉納されるようになったのは江戸時代の中後期の頃といわれているが、はっきりした事は分らない。

夜の獅子舞は稀らしく、梓衝神社の昼の獅子舞と対照的である。

〔梓衝村誌考〕「木之崎民俗調査書」より〕